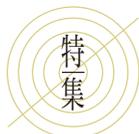


Vascular Street



第9回日本フットケア学会学術集会市民公開講座

Legs for Life ～足は第二の心臓～



福岡大学医学部
心臓・血管内科学
教授 朔啓二郎先生
(NPO 法人臨床応用科学 理事長)



社会医療法人 喜悦会
那珂川病院 血管外科
部長 竹内 一馬先生
(NPO 法人足もと健康サポートネット 代表)



福岡大学医学部
心臓血管外科学
教授 田代 忠先生

はじめに

末梢動脈疾患 (peripheral arterial diseases: PAD) は、虚血性心臓病とともに増加している。末梢動脈とは、一般に心臓および冠動脈以外の動脈で、大腿動脈、膝窩動脈、頸骨および腓骨動脈、腹部大動脈やその分枝、肩や腕や頸胸部の動脈である。PAD は、急性・慢性閉塞性疾患、閉塞性動脈硬化症 (ASO)、血管形成異常、塞栓症や血栓症からなる急性閉塞、血管損傷、糖尿病や膠原病に併発した病態等、様々な概念と疾患が含まれる。日本においても時代とともに PAD のとらえ方は変化し、以前は Buerger 病 (thromboangitis obliterans: TAO) と ASO は異なった疾患単位であったが、現在はともに PAD として括られている。日本循環器学会のガイドライン中にも、「閉塞性」病変の病態は、動脈硬化や血管炎等をはじめとした様々な原因によるもので、閉塞様式も急性か慢性かの時間軸を有していると記されている。日本における一般集団の PAD 罹患者の正確な把握は難しいが、ASO では推定34～43万人、無症候性 ASO 患者を含めると約50～70万人いる。当然、加齢・糖尿病の合併群において有病率は増加する。PAD は、日常臨床において思いがけずその合併が発見されることも多いが、軽症から四肢の切断にいたる重症虚血肢 (critical limb ischemia: CLI) まで多彩な症状を有し、本来の機能を失い QOL が悪化するため、リハビリテーションや介護・ケアの診療体制構築が必須である。従って、虚血性心臓病と同等の疾患として包括的な対応が今後の課題となる。

今月号の Vascular Street は、第9回日本フットケア学会の市民公開講座のオーガナイザーを務めた竹内一馬先生にお話を伺った。竹内先生は私の大学院 (福岡大学医学研究科循環生理化学) で学位 (医学博士) 取得後、心臓血管外科で臨床修練をし、今年4月から那珂川病院に勤務している。学位論文は、細小動脈の血管コンプライアンス (弾性) と冠動脈の関連を研究したもので、2004年の Am J Hypertension に掲載された (Takeuchi et al. Influence of age and hypertension on the association between small artery compliance and coronary artery disease. Am J Hypertens. 2004, 17:1188-91.) が、本論文は循環器内科と田代教授の心臓血管外科との共同研究で、竹内先生は以前から末梢血管をターゲットにしていたのである。足は第二の心臓というが、彼にとって足病と第二の人生をスタートさせた。



市民公開講座のスタッフの皆様



市民公開講座で春日交響楽団をバックにフルートを演奏する竹内先生

第9回 日本フットケア学会年次学術集会 市民公開講座 (学会初企画)

日時 平成23年2月13日(日) 11:00~15:30

場所 アクロス福岡 地下2階 イベントホール

参加費無料 検査や相談もすべて無料です!
福岡糖尿病療養指導士認定講座 (2単位)取得できます

Legs for Life ~足は第二の心臓~

エミレクチャー	① 脚の健康 [11:00]	横井 宏雄 (福岡大学 皮膚科)
② 皮膚科医による足の相談 [11:00]	高野 文二 (福岡大学 皮膚科)	
③ 整形外科による足の相談 [11:00]	志保 利典 (福岡大学 整形外科)	
④ オートエによる足のケア [11:00]	横森 三子 (福岡大学 皮膚科)	
⑤ 家でできるフットケア [11:00]	大塚 広美 (福岡大学 皮膚科)	
⑥ 糖尿病性神経障害 [11:00]	横井 宏雄 (福岡大学 皮膚科)	
⑦ 春日交響楽団コンサート [12:00]		
オーガナイザー	⑧ 竹下 博三 (福岡大学 皮膚科)	高野 文二 (福岡大学 皮膚科)
⑨ それで、あなたに1歩を踏みだそう [13:00]	志保 利典 (福岡大学 整形外科)	
⑩ 糖尿病性神経障害の相談 [13:00]	横井 宏雄 (福岡大学 皮膚科)	
⑪ 義肢装具士ってどんな仕事? [13:00]	横井 宏雄 (福岡大学 皮膚科)	
⑫ 糖尿病の合併症(腎臓) [14:00]	高野 文二 (福岡大学 皮膚科)	
⑬ 糖尿病の合併症(神経) [14:00]	横井 宏雄 (福岡大学 皮膚科)	
⑭ 家でできる足のケア [15:00]	横井 宏雄 (福岡大学 皮膚科)	

会場へのアクセス

TEL:092-712-6201 FAX:092-712-6262 E-mail:footcare9@convention.co.jp

竹内 平成23年2月13日(日)、「アクロス福岡イベントホール」にて開催した日本フットケア学会初となった市民公開講座は約2200人の市民が来場し、大盛会でイベントを終えることができました。昨年、福岡大学病院が主催したフットケア市民公開講座が約3000人の来場者数と国内最大規模となった実績を受けて、第9回日本フットケア学会学術集会の主催者である小倉記念病院から委託を受けての開催となりました(図1)。市民公開講座は、学術集会と同様に「Legs for Life ~足は第二の心臓~」をテーマに、市民が参加し体験できる参加型イベントとして企画し、私が監修したものです。一般にありがちな講演聴講だけの形態ではなく、このイベントに参加すれば市民がいろいろな足の悩みを解決でき、自分の足に興味を持てるようになることを目標としました。イベントの概要は、一般講演に加え、スキンケア用品の展示、フットケアリストによるフットケア体験、義肢装具士によるインソール作成のデモンストレーション、コンフォートシューズ・医療用靴や義足の展示、フットプリント体験、看護師・糖尿病療養指導士・専門医による足の相談コーナー、管理

図1



栄養士による相談コーナー、頸動脈エコーやABIによる非侵襲的動脈硬化測定などの簡易健診、ポスター展示、クラシックミニコンサート、各種ウォーキング指導コーナーなどを盛り込み、すべてのブースや講演聴講は予約不要、無料で行いました(図2)。



図2

食生活の欧米化による肥満、糖尿病の増加、透析医療や血管内治療(カテーテル)の進歩による動脈硬化末期症状の患者の増加、少子高齢化の進行など、さまざまな要因から、今後の日本社会において足に何らかのトラブルを抱えた患者さん(すなわち足病患者)は増加していくものと予想します(図3)。フットケアは健常者だけでなく高齢者・糖尿病や動脈硬化症の患者さんのQOL(生活の質)を向上するために、大変重要なものです。

朔 前回に引き続き、本イベントが盛会であったことは大変喜ばしいことですね。しかも、2月の開催にも関わらずこれだけ多くの市民の皆様が来場したということは、足病に関してまだまだ医療が行き届いていない現状と考えます。これは先生が福大病院の心臓血管外科(教授:田代 忠先生)に在籍中のイベントですね。

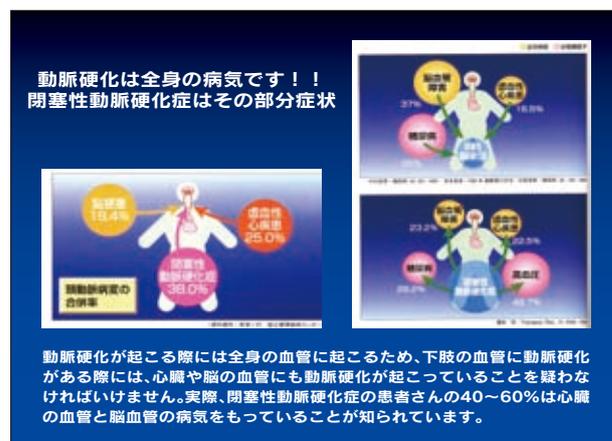


図3

竹内 そうですね。来場の方から福岡大学は、すばらしい企画を多く開催していて感心する。今日、ここに来て本当に良かった。来年はいつ開催するのか?など、言ってくださる方が多かった一方、足に問題があったときに、どの病院で診てもらったらいいいのか分からない。どの診療科を受診すれば良いのか分からないケースが多いんですね。医療機関に行っても足のことは医師が真剣に診てくれない、話を聞いてくれない、といった内容がアンケートにも多くありました。

田代 足病の治療は、病院でも単独診療科で治療が完結することは困難で、いくつかの診療科とのチーム医療が原則です。このような市民の声を反映し、これまで以上にチーム医療を円滑にして、また地域連携の強化をすべきですね。足もとの健康を守るために、まず足もとを固めていく必要があります。

竹内 まさにそう思います。私達はそれぞれの専門治療を行うだけでなく、予防医学の一環として、積極的に今回のような市民への啓発活動を行っていかなければならないことを痛感いたしました。本会で特筆できることのひとつに、ボランティアスタッフのパワーが上げられます。今回は福大病院関係者だけではなく、特定医療法人順和 長尾病院、医療法人白十字会 白十字病院、社会保険 小倉記念病院の医療関係者、さらには足に携わっ



ている民間の方(靴店・装具会社・企画会社等)にも多くスタッフとして協力していただきました。これはチームパワー、地域医療として誇れるものです。今後もこの新たに生まれた人の輪やパワーを医療に生かしていきたいと考えています。当日はTVQ九州放送のニュースにも取り上げていただきました。google や yahoo で「フットケア 福岡 市民公開講座」と検索をかけていただくとYouTube でご覧いただくことができます。

朔 世界では糖尿病によって30秒に1人の足が失われている現実があります(図4)。地方都市である福岡で始まった本イベントが全国に拡がり、市民の方・医療関係者が「フットケア・フットウェア」「足(脚)」に関心を持っていただければ幸いです。そしてそのことによって、一人でも多くの患者さんを糖尿病・末梢動脈疾患・透析などの疾病による下肢切断から救済できればと願います。

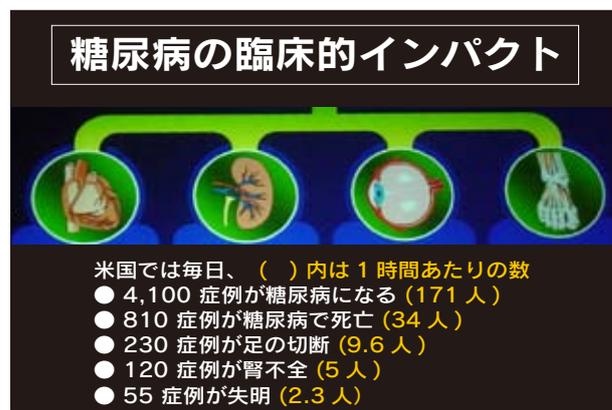


図4

竹内 「フットケア・フットウェア」の啓発活動を活発に行えるように「NPO 法人 足もと健康サポートねっと」(<http://ashimotokenko.com/>)を立ち上げました。現在、申請中で7月頃に認可の予定です。こちらに関しましても、今後とも温かいご支援・御指導をいただけますようお願いいたします。

Prof. Saku's Commentary

PAD は、体の部分的な病気にとどまらず、全身疾患としてとらえるべきである。そのため、虚血性心疾患や脳血管障害などのイベント防止を念頭におき、様々な対応が必要になる。わが国における高血圧患者の総数は、男女合わせて約4000万人になるが、高血圧はPADの危険の増加に関連し、喫煙はPADの唯一修正可能な原因である。さらに、喫煙する糖尿病患者の肢切断のリスクはきわめて高く、脂質異常症および慢性腎臓病の存在はPAD、ASOの進行をさらに加速する。



新刊紹介

おすすめ

閉塞性動脈硬化症診療マスターブック(編集 朔 啓二郎)の紹介

PADの中でのASOの捉え方は、すでに浸透したものであるが、本書ではPADの総論とASOを中心とした各論を、各専門分野の先生方に担当していただき、一般医にとって読みやすく企画した。特に、ASOの診断は重要であり、足関節上腕血圧比(ABPI)・下肢ドップラー超音波試験等を中心としたバスキュララボ、血管造影法、CTAやMRAの最新データの紹介から、鑑別診断、治療では薬物療法、血管内治療、外科的血行再建、運動療法、骨髄単核球移植による血管新生療法、和温療法やフットケアまで紹介する。PADの存在は、「10年間の冠動脈イベントの20%の危険率」よりさらに悪い。冠動脈硬化は、内皮機能の異常が初期の病因として重要であるが、PAD、ASOの病態生理と冠イベント発症がどのように関連しているか、今なお明確ではない。本企画が明日からの日常診療にとって役立つものとなれば幸いです。

(新興医学出版社、定価5,250円)

